

下地探しの注意点！

動画で詳しく
説明しているよ☆



壁に絵や写真を飾ったり、時計を掛ける時に必要になるのがフックです。フックを壁に取り付ける際には、壁の素材や厚みに注意し、適したフックを選ばないと、上手に掛けることができません。ここでは、壁の構造と掛けるものに適したフックの選び方をご紹介します！

取りつける壁の構造を確認しよう

木造住宅の壁下地は縦に柱や間柱があり、壁下地はそこに釘などでとめられています。柱や間柱にはネジやクギがききますが、中空部分には専用のネジやフックを使わなくてははいけません。

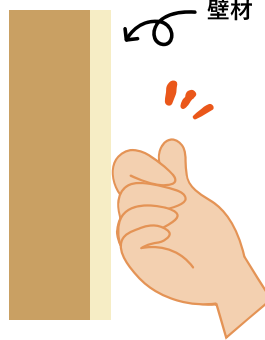


【壁の構造の確認方法】

壁をたたいて、フックを取りつける位置の様子を確認しましょう。

A 強く詰まった音がする
壁の内側に柱や間柱があります。

壁下地

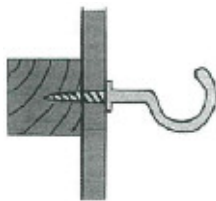


B ポコポコした音がする
壁の内側が空洞（中空構造）です。

A 壁の内側に柱や間柱がある場合

フックを取りつける場合には、壁の内側に柱や間柱がある場所を探してつけるのが、いちばんしっくりします。重いものを取りつける際には、壁裏センサーを使うなどして、この場所を確認しながら取りつけましょう。

※取りつけるときには、最初にキリなどで小さめの穴を開けてから、フックをねじ込んだり、ネジ止めします。



＼便利用品／

針を壁に差し込むと下地の位置と壁材の厚さが分かる下地探しや壁裏センサー



併せてご使用いただくと効果的です！

B 壁の内側が空洞の場合

たたいてポコポコ音がする部分は壁の中が空洞になっています。石膏ボードや合板の厚み分しかフックやネジはききません。重量のあるものを掛ける際には、空洞壁面用（中空構造用）のフックを使いましょう。

【Xフック】

ピンを斜めに差し込むことで、下にかかる力に強いのが特徴です。「額用フック」とも呼ばれます。

ピンは1～3本タイプがあります。



【石膏用フック】

本体に開いている斜めの穴にピンを差し込んで固定します。本体の上からキャップをかぶせるので、見た目もすっきりしています。



1) 金具を壁に押しあてます。 2) ピンを押し入れます。 3) キャップをはめます。